

## 上野晃史先生を悼む

プラスチックリサイクル化学研究会 会長 加茂 徹

プラスチックリサイクル化学研究会の発足時からの会員で、2004 から 2 年間の幹事を務めて頂いていた静岡大学の上野晃史先生が、4 月 23 日に逝去されました。当会会長として 慎んでお悔やみ申し上げます。

上野先生は、産業技術総合研究所の前身である工業技術院の化学技術研究所から静岡大学に移られ、主に触媒の研究に従事されておりました。当研究会が発足した当時、ポリ塩化ビニルの不適切な処理によって発生したダイオキシンが大きな社会問題となり、私共の工業技術院でもポリ塩化ビニルのリサイクルを研究しておりました。その時、上野先生は単にポリ塩化ビニルをリサイクルするのではなく、塩素を循環利用する斬新なアイデアを提案され、その高い見識と慧眼は若い研究者の尊敬を集めておりました。

当会に対するこれまでの上野先生のご協力に感謝して、心よりご冥福をお祈りします。

平成 27 年 5 月 12 日

プラスチックリサイクル化学研究会 会長 加茂 徹

## 上野晃史先生を悼む

静岡大学工学部長 佐古 猛

上野晃史教授は平成 27 年 4 月 23 日に亡くなられました。上野先生は長年にわたって触媒開発の研究を行っておられました。最近の研究では、反応性が低いメタンからホルムアルデヒドやメタノールを合成する触媒の開発の研究を精力的に進められていました。私自身も、この研究テーマについて上野先生と共同研究を行い、高温・高圧の熱水中で上野先生が開発された触媒の性能試験を行いました。

上野先生は大変研究熱心で、触媒をキーワードに、触媒の調製や機能の解明といった基礎研究から、触媒を用いたプラスチックのリサイクルといった応用分野まで幅広く研究を行っておられました。また学生の教育にも熱心で、時には酒を飲みながら、学生と話をされている姿が印象的でした。大学を卒業されてから、現在の産業技術総合研究所の前身である工業技術院の化学技術研究所で仕事をされ、その後、豊橋技術科学大学と静岡大学に移られて研究を続けられ、定年退職を迎えられました。その後は、心機一転、民間企業で研究を継続されました。本人が生前から言われていたように、産官学の全てで研究を成し遂げられました。

私生活では、野球が大好きな先生でした。自ら選手として活躍すると共に、酒の席では、しばしばプロ野球の解説をされていました。豊富な知識と経験に裏打ちされた説明に、一同聞き入っていました。

上野先生は、研究に対する高い見識と真摯な姿勢、一方で穏やかで人懐こい性格から、多くの研究者の尊敬を集めていました。先頭に立ってみんなを引っ張っていくというよりも、みんなが嫌がる仕事を率先して引き受けて、全体をサポートすることが多かったと思います。上野先生の穏やかな表情を思い出しながら、心よりご冥福をお祈りします。

平成 27 年 9 月 30 日